(見出し)

「英国安全衛生庁(HSE)は、2019年7月3日(現地時間)に、2018年度(2018年4月1日から2019年3月31日まで)のグレートブリテンにおける労働者(被雇用者及び自営業者を意味する。以下同じ。)の死亡(労働)傷害の速報値を要約(Summary)として公表しました。」

英国安全衛生庁は、2019年7月3日(現地時間)に、2018年度(2018年4月1日から2019年3月31日まで)のグレートブリテンにおける労働者の死亡労働傷害 (労働災害)の速報値を要約(Summary)として公表しました。それによると、2018年度(2018/19)における労働者の死亡労働傷害の合計の暫定的な数字は、147人(HSE が別に公表している詳細な資料(この資料の所在:www.hse.gov.uk/statistics/tables/ridfatal.xlsx。以下同じ。)では、被雇用者が106人及び自営業者が41人で、合計147人)でした。これは、その前年度(2017/18では141人)よりは6件増加していますが、この変化は、自然的な変動の範囲内であると、英国安全衛生庁は分析しています。

このデータの根拠は、英国安全衛生庁の"the Reporting of Injuries, Diseases and Dangerous Occurrences Regulations (RIDDOR)"(訳者注:「傷害、疾病及び危険事象報告規則」)に基づき所管行政庁に報告された死亡傷害のうち、同規則による報告基準に適合するものと判断された死亡 (労働) 傷害のみを含んでおり、疾病による死亡及び非鉄道輸送システムにおける死亡事故は、含まれていません。

HSE が別に公表している詳細な資料では、2018/19 年度の対応する(①被雇用者及び自営業者の合計、②被雇用者のみ、③自営業者のみ)の 100,000 人当たりの死亡傷害の発生率は、①については 0.45、②については 0.39、③については 0.79 でした。これらのデータは、グレートブリテンにおける死亡傷害の発生数及び発生率が、国際的に見ても依然かなり低い水準であることを示しています。

(訳者注:「グレートブリテン」とは、イングランド、スコットランド及びウェールズの地域の総称であり、北アイルランドは含まない。以下同じ。)

なお、上記のとおり「これらのデータは、グレートブリテンにおける死亡傷害の発生数及び発生率が、国際的に見ても依然かなり低い水準

であることを示しています。」とされていることとの関連で、本資料の末尾に、この資料の作成者が作成した「(参考資料) ◎ 労働災害の発生率に関する日本及びアメリカ合衆国並びに EU 加盟国全体、EU 加盟諸国のうち英国、フランス及びドイツとの比較について」を添付してあります。

(作成者注:以下の記述のうち、「イタリック体で表記されているもの」は、作成者が文意を補足するために加えたものです。)

[原資料の題名及び所在]

[Fatal injuries arising from accidents at work in Great Britain 2019, https://press.hse.gov.uk/2019/07/03/hse-releases-annual-workplace-fatality-figures2/?utm source=govdelivery&utm medium=email&utm campaign=digest-3-]

[著作権について]

HSE が、関連するウェブサイトで公表している資料については、"Open Government Licence for public sector information"にあるとおり、 資料出所を明記する等の一定の条件を満たせば、自由にコピーし、公表し、配布し、及び転送し、情報を加工すること等が許容されています。

[この資料の目次]

Contents

0011001100	
英語原文	日本語仮訳(左欄の原典のページ数は、省略した。)
Summary 2	要約
Introduction 3	はじめに
Fatal injuries to workers 3	労働者についての死亡傷害
Headline figures 3	主要な数字
Injuries by industry 4	産業別の傷害
Injuries by accident kind 6	事故の性質別の傷害
Injuries by gender and age 7	性別及び年齢別の傷害
Injuries by employment status 8	雇用形態別の傷害
Injuries by country within GB 9	グレートブリテン内の国別の傷害

Injury comparison with other countries 10	他の国々との比較	
Longer term trends 11	より長期的な傾向	
Fatal injuries to members of the public 12	of the public 12 (一般) 公衆の死亡傷害	
Annex 1 – Sources and definitions 13	附属書一資料出所及び定義	

Summary

147

Workers killed in 2018/19 (RIDDOR)

(訳者注:要約)

く。

147 人の労働者 (被雇用者が 106 人及び自営業者が 41 人) が、2018/19 年度で死亡し た。) ((RIDDOR)"「傷害、疾病及び 危険事象報告規則」)に基づ

[次の円グラフの訳者説明]

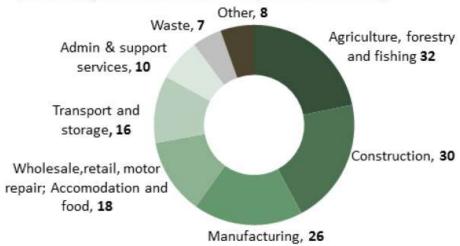
- 2018/19(4月1日から翌年3月31日まで)には、職場で147人の労働災害死亡者 (被雇用者が106件及び自営業者が41件)があった。
- 主要産業別の死亡傷害者数及び年齢別の死亡傷害者数の内訳

主要産業別の死亡傷害者数の内訳		
英語原文	日本語仮訳	死亡者数
Agriculture, forestry and fishing	農林水産業業	32
Construction	建設業	30
Manufacturing	製造業	26
Wholesale, retail, motor repair; Accomodation and food	卸売業、小売業、自動車修理業、宿泊業及び食品サービス業	18
Transport and Storage	運輸及び倉庫業	16
Admin & support services	管理及び支援サービス業	10
Waste	廃棄物 (処理) 業	7
Other	その他	8

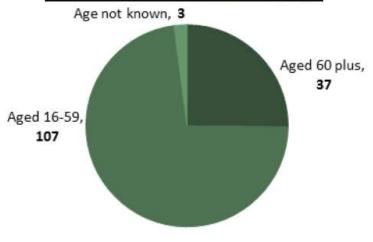
年齢別の死亡傷害者数の内訳		
英語原文	日本語仮訳	死亡者数
Age 16-59	年齢 16-59	107
Age 60 plus	年齢 60 以上	37
Age not known	年齢不詳	3

 \Rightarrow

Fatal injuries to workers by main industry

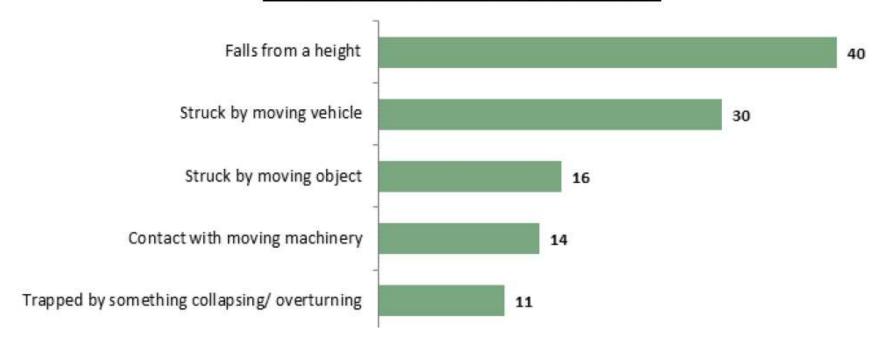


Fatal injuries to workers by age





Main kinds of fatal accident for workers



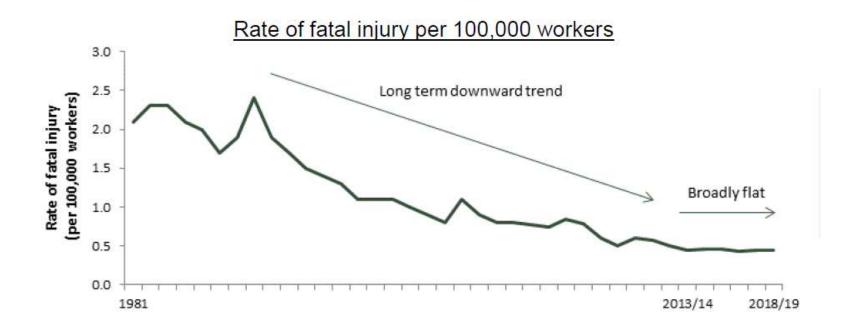
労働者(自営業者を含む。)の死亡労働傷害の主要な原因別内訳](次の棒グラフを参照されたい。)

Main kinds of fatal accident for workers	主要な原因(左欄の日本語仮訳)	死亡者の内訳数
Falls from a height	高所からの墜落	40
Struck by moving vehicle	動いている車両に衝突された	30
Struck by moving object	動いている物体に衝突された	16
Contact with moving machinery	動いている機械との接触	14
Trapped by something collapsing/overturning	崩壊し、転覆した何かの物体に閉じ込められた	11

(訳者注:以下、第4図も同じである。)

[労働者 100,000 人当たりの死亡 (労働) 傷害発生率の推移]

1981~2018/19 年度までの労働者 100,000 人当たり(自営業者を含む。)の死亡 *(労働)* 傷害者数(つまり発生率)は、次の線グラフのとおりである。



92

Members of the public were killed due to work related activities in 2018/19

(訳者注:右上のコメントの説明)

日本語仮訳

2018/19 には、作業関連活動のために 92 人の一般市民が死亡した。

(訳者注:労働者 (全体)、被雇用者、自営業者の死亡傷害の内訳(資料出所: www.hse.gov.uk/statistics/tables/ridfatal.xlsx からの Table 1 (抜粋))

		Number of fatal injuries		Rate of fatal injury per 100,000 workers (or employees /			
		(傷害死亡の数)		self-employed)	self-employed)		
				(労働者 <i>(自営業者</i> 又)	は被雇用者 <i>)</i> 10 万 <i>/</i>	当たりの死亡	
				(労働)傷害の発生率)			
		Workers	Of which		Workers	Of which(左欄の内訳)	
		(労働者(被雇用者及	(左欄のうち	5∼、)	(労働者(被雇用者及		
		び自営業者の合計))			び自営業者の合計))		
Year	Main Industry SIC 2007		Employees	Self-		Employees	Self-employed
	(Section)		(被雇用	employed		(被雇用者)	(自営業者)
	(2017 年版の標準産業分類)		者)	(自営業者)	合計		
2018/19p	All Industries (A-U)(全産業	147	106	41	0.45	0.39	0.79
(暫定値)	合計)						

英語原文	日本語仮訳
Introduction	はじめに
This report provides headline numbers on workplace fatal injuries that	この報告書は、2018/19 年度(訳者注:2018 年 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日ま
were reported to enforcing authorities in 2018/19. It includes both fatal	で)に法執行機関に報告された職場での死亡傷害に関する主要な数を与えるも
injuries to workers and to members of the public. The 2018/19 figures are	のである。それは、労働者及び一般公衆の両方を含んでいる。2018/19 の数字
currently provisional and will be finalised in July 2020 to take account of	は、現在は暫定的なものであって、必要な補正を考慮して、2020年7月に確
any necessary adjustments. In tables and chart headings 2018/19 is marked	定されるであろう。2018/19の表及び図の表題においては、明確化のため、p
as 'p' for clarity.	が付されている。

Fatal injuries are thankfully rare events. There is a degree of chance and randomness to the annual count resulting in an element of natural variation from one year's count to the next. To allow for this natural variation, alongside figures for 2018/19, this report also presents the annual average estimate for the five years 2014/15-2018/19, which reduces the effect of year-on-year fluctuations and gives a more stable current picture.

The figures make up part of a long running series enabling both short and long term comparisons of change.

The information includes only those cases of fatal injury that the enforcing authorities have judged as meeting the reporting criteria as set out in the Reporting of Injuries, Diseases and Dangerous Occurrences Regulations (RIDDOR). Two notable exclusions from these statistics are fatal diseases and fatal accidents on non-rail transport systems. (See Annex 1 for more details).

幸いなことに、死亡傷害は、稀に起こる出来事である。毎年の総数には、ある年から次の年までの自然な変動の要素の結果として、偶然及びばらつきの度合いがある。2018/19の数字に即して、この自然的な変動を認容するために、この報告は、年々の揺らぎの影響を減少させ、及びより安定した傾向を与える5年間、2014/15—2018/19の年間平均値をも与えている。

この数字は、短期及び長期の変化の比較を可能にする長期的な数字の一部分を形成している。

この情報は、法執行機関が傷害、疾病及び危険事象報告規則(RIDDOR)で設定されている報告基準に適合していると判断した死亡傷害のみを含んでいる。これらの統計からの二つの主要な例外は、死亡疾病及び非鉄道輸送システムにおける死亡傷害である。(より詳細には、附属書1を参照されたい。)

Fatal injuries to workers

Headline figures

A total of 147 workers were killed at work in Great Britain in 2018/19. Although this represents an increase of 6 fatalities from 2017/18, it is possible that this change can be explained by natural variation in the figures. In statistical terms the number of fatalities has remained broadly level in recent years – the average annual number of workers killed at work over the five years 2014/15-2018/19 is 142.

労働者に対する死亡傷害

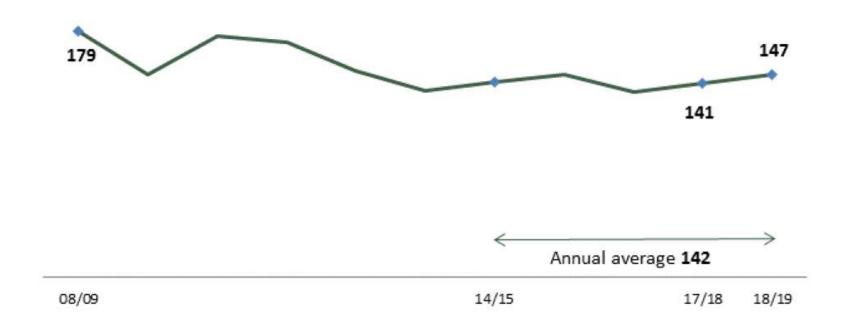
主要な数字

2018/19 に、グレートブリテンの職場で、合計 147 人の労働者が死亡した。これは 2017/18 から 6 人の死亡者の増加を表しているが、この変化は数字の自然な変化によって説明できる可能性がある。 統計上、死亡者数は近年ほぼ横ばいであり、2014/15-2018/19 の 5 年間に職場で死亡した労働者の年間平均人数は 142 人である。



[図1 連合王国のうち、グレートブリテンでの死亡傷害者数の 2008/09 から 2018~2019p 年度までの推移。ただし、2018/19 については暫定値である。]

Figure 1: Fatal injuries to workers: GB 2008/09 - 2018/19p



Injuries by industry (1)

There are two ways of looking at fatality numbers. The first is to look at the absolute count. On this basis, Construction and Agriculture, forestry and fishing tend to come out worst as they account for the greatest number of fatalities each year.

(原典の注(1):2007年の標準的な産業分類による。)

産業別の傷害

死亡傷害の数を見るには二つの方法がある。一つは、絶対数字を数えることである。この基礎では、建設業及び農林水産業が、毎年最も多い死亡傷害を数えていて、最悪である。

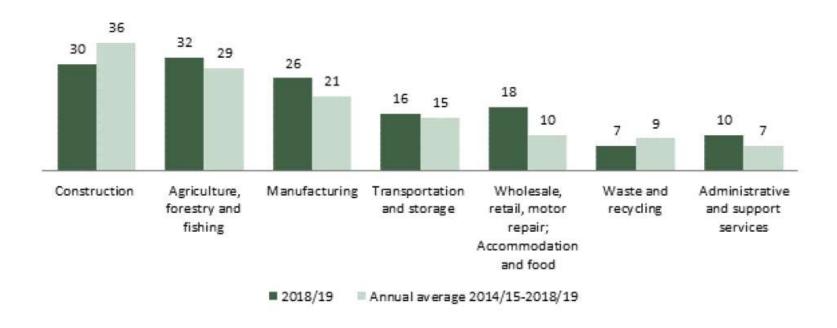
[Figure 2: Number of fatal injuries by main industry group, 2018/19p and annual average for 2014/15-2018/19p]

[第2図 主要な産業グループ別の 2018/19 の死亡者数の内訳及び 2014/15—2018/19p の間の年平均死亡者数] (訳者注:

は、2018/19 の死亡者数

□は、2014/15—2018/19 の間の年平均死亡者数 (以下同じ。)

Figure 2: Number of fatal injuries by main industry group, 2018/19p and annual average for 2014/15-2018/19p



- The number of fatal injuries in 2018/19 for each of the main industry sectors is broadly in line with the annual average over the last five years. However, numbers can be prone to year-on-year fluctuations.
- The number of fatal injuries to workers in Construction in 2018/19 (30) is the lowest number on record, a similar number to the previous low in 2016/17 (31). However, the number has fluctuated over the last five years ranging between 30 and 47 (in 2015/16)
- The number of fatal injuries in Manufacturing has fluctuated over the last five years, and the number in 2018/19 is up on the low of 15 in 2017/18.
- Of the 18 deaths in Wholesale, retail trade, motor vehicle repair;

 Accommodation and food services
- o 7 were in Wholesale and retail trade of motor vehicles (including motor vehicle repair);
- o 8 were in other Wholesale trade activities;
- o 2 were in Retail trade
- o 1 was in Accommodation.
- Although not shown in Figure 2, there were 8 fatal injury cases in other sectors in 2018/19, including 4 in public services (comprising Public administration; Education; Human health and social work activities).

The second approach of looking at fatality numbers is to consider the **fatal injury rate** in terms of the number of fatalities per 100,000 workers employed.

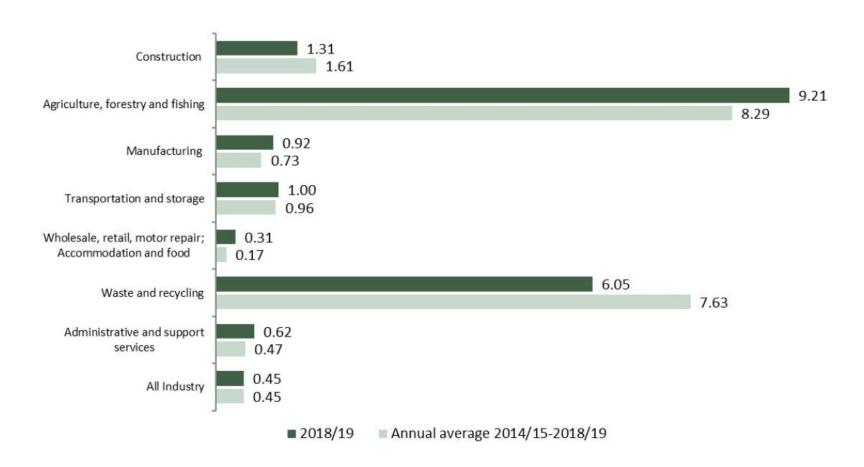
- 主な産業部門ごとの 2018/19 年の死亡傷害の数は、過去 5 年間の年間平均 とほぼ同じである。しかし、数値は毎年のゆらぎで変動する可能性があ る。
- 2018/19 の建設業の労働者の死亡傷害の数(30) は記録的に最も少ない数であり、2016/17 の過去の最低数(31) と同様の数である。しかし、この数は過去5年間で30から47(2015年/16年)の間で変動している
- 製造業における死亡傷害の数は過去5年間で変動しており、2018/19年の数は2017/18年の15の最低値を上回っている。
- 卸売業、小売業、自動車修理業;宿泊及び食品サービスにおける 18 人の 死亡の内訳は、次のとおり。
- o7人は、自動車の卸売業及び小売業(自動車修理業を含む。)、
- o8人は他の卸売業の活動、
- ο2人は小売業、
- 01人は宿泊業、
- 図 2 には示されていないが、2018/19 年の他の部門では公共サービス(行政、教育、医療及び社会福祉活動)の 4 件を含む 8 件の死亡傷害があった。

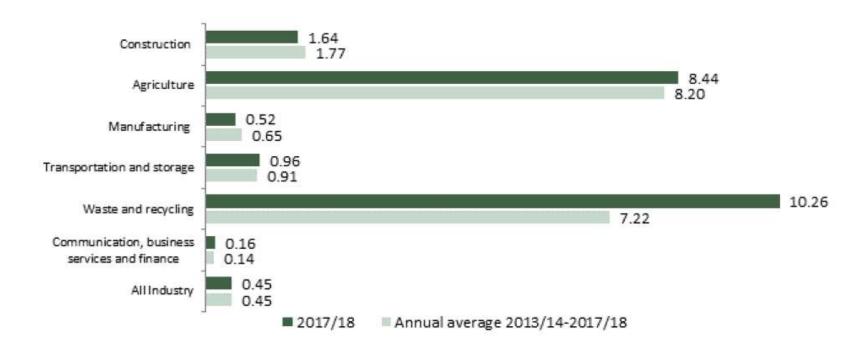
第2の死亡傷害者数の見方は、100,000人の雇用されている労働者当たりの死亡傷害者数である**死亡傷害の発生率を**考慮することである。

[Figure 3: Rate of fatal injuries by selected main industry group (per 100,000 workers), 2018/19p and annual average for 2014/15-2018/19p]

[第3図 特定の主要産業グループ別の死亡傷害の発生率(労働者100,000人当たりの数)、2017/18 暫定値及び2014/15—2018/19(暫定値)までの年平均発生率]

Figure 3: Rate of fatal injuries by selected main industry group (per 100,000 workers), 2018/19p and annual average for 2014/15-2018/19p





(訳者注:第3図の左欄の業種は、次の英語―日本語仮訳のとおりである。)

業種(英語原文)	左欄の日本語仮訳
Construction	建設業
Agriculture, Agriculture, forestry and fishing	農林水産業
Manufacturing	製造業
Transportation and storage	運輸及び倉庫業
Wholesale, retail trade, motor vehicle repair; Accommodation and food	卸売業、小売業、自動車修理業;宿泊業及び食品サービス業
services	
Waste and recycling	廃棄物(処理)及びリサイクル業
Admin & support services	管理及び支援サービス業
All industry	全産業

Based on the annual average rates for 2014/15-2018/19 (as this reduces the effect of year-on-year fluctuations and gives a more stable picture):

- Agriculture, forestry and fishing and Waste and recycling come out worst, with a rate of injury some 18 times and 17 times as high as the average across all industries respectively.
- The rate of fatal injury in Construction, while around 4 times as high as the average rate across all industries, is considerably less than the rate in either Agriculture, forestry and fishing or Waste and recycling, despite accounting for a greater number of cases than these sectors.
- The Manufacturing and the Transportation and storage sector have a rate of fatal injury around 1.5 to 2 times the average rate across all industries.
- Although not shown in figure 3 above, the rate of fatal injury in Mining and quarrying is around four times as high as the average rate across all industries and broadly similar to that seen in Construction.
- While the combined 'Wholesale, retail, motor repair; Accommodation and food services' sector account for around 7% of fatal injuries between 2014/15 and 2018/19, in terms of rate the overall sector is relatively low risk with an injury rate of around one third the all industry rate. However, there will be variation in risk across activities within the sector.

For more details of fatal injuries by main industry sector, see Table 1, www.hse.gov.uk/statistics/tables/ridfatal.xlsx

2014/15—2018/19 の年間平均死亡率 (これは、年々の揺らぎの影響を減少させ、 及びより安定した像を与えるので。)

- 農林水産業、廃棄物 (処理)・リサイクル業は、それぞれ、全産業平均の 18 倍及び 17 倍の発生率で、最悪である。
- 建設業の発生率は、全産業の平均の発生率のおおよそ4倍ではあるものの、 農林水産業又は廃棄物 (処理)・リサイクル業よりも多くの死亡傷害者数を 数えているけれども、これらの業種の発生率よりもかなり低い。
- 製造業並びに運輸・倉庫業の両方の部門では、死亡傷害発生率は、全産業平均のおおよそ 1.5 から 2 倍である。
- 上記の第3図では示されていないが、鉱業及び採石業の死亡傷害発生率は、 全産業のおおよそ4倍で、おおざっぱに言えば、示されている建設業の死 亡傷害発生率と同様である。
- 卸売業、小売業、自動車修理業、宿泊業及び食品サービス業を組み合わせた業種別では、 2014 年/15 年から 2018 年/19 年までの間の死亡傷害の約7%を占めているものの、発生率では、この業種は比較的危険性が低く、全業種の約3分の1の発生率である。ただし、この業種の活動によってリスクにはばらつきがある。

主要な産業部門のより詳細なデータについては、表 1、www.hse.gov.uk/statistics/tables/ridfatal.xlsx を参照されたい。

Injuries by accident kind

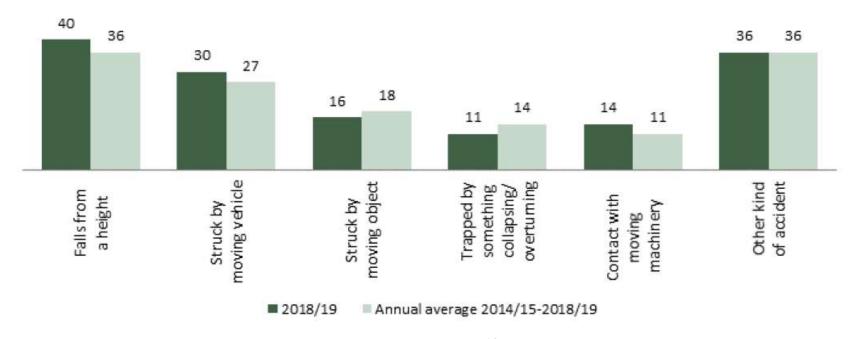
Around three-quarters of fatal injuries in both 2018/19 and the combined five-year period 2014/15-2018/19 were accounted for by just five different accident kinds (see figure 4 below). Falls from a height, being struck by a moving vehicle and being struck by a moving, including flying or falling, object continue as the three main causes of fatal injury, between them accounting for over half of all fatal injuries each year since at least 2001/02.

災害の種類別の傷害

2018/19 及び 2014/15—2018/19 の合計平均発生率の両方における死亡傷害の おおよそ 3/4 は、ちょうど 5 種類の異なる災害の種類で数えられている。(次の第 4 図を参照されたい。)高所からの墜落、動いている車両に衝突された、及び飛んできたか、又は落下してきた物を含む動いていた物体に衝突された、は、死亡傷害の 3 つの主要な原因であることを続けており、これらで少なくとも 2001/02 以来の毎年の死亡傷害全体の半分以上を数えている。

[Figure 4: Number of fatal injuries to workers by accident kind, 2018/19p and annual average for 2013/14-2017/18p] [第4図 災害の種類別の死亡者数の内訳、2016/17暫定値及び 2014/15—2018/19暫定値の年平均]

Figure 4: Number of fatal injuries to workers by accident kind, 2018/19p and annual average for 2014/15-2018/19p



- In 2018/19, 40 fatal injuries to workers were due to falls from a height. This compares to 35 in 2017/18 and an annual average over the period 2014/15-2018/19 of 36.
- Being struck by a moving vehicle accounted for 30 fatal injuries to workers in 2018/19 compared with 24 in 2017/18 and an annual average of 27over the period 2014/15-2018/19.
- The number of fatal injuries caused by being struck by a moving, including flying or falling, object has fluctuated between 15 and 23 over the last five years, with an annual average of 18 over the period 2013/14-2018/19.
- The 36 fatal injury cases in the Other kind of accident category in 2018/19 are made up of a range of different accident kinds including (but not limited to):
 - Injured by an animal (8)
 - Drowning or asphyxiation; Exposed to explosion; Contact with electricity or electrical discharge; (5,5,4 fatalities respectively).

For more details of fatal injuries by accident kind, see Table 3, www.hse.gov.uk/statistics/tables/ridfatal.xlsx

- 2018/19 では、40 件の労働者の死亡傷害は、高所からの墜落によるものであった。これは、2017/18 における 35 件及び 2014/15—2018/19 までの年平均の 36 件の記録と比較する。
- 移動する車両との衝突は、2017/18 年の 24 人、2014/15 2018/19 年の年間 平均 27 人と比較して、2018 年/19 年の労働者の 30 人の死亡傷害の原因と なっている。
- 飛来したり、落下したりするものを含む、動体との衝突による死亡傷害の数は、過去5年間で15から23の間で変動し、2013/14から2018/19の間で年間平均18人である。
- 2018 年/19 年の他の種類の災害分類の36 の死亡傷害のケースは、以下を含む(しかしそれに限定されない)さまざまな種類の事故で構成されている。
 - ・動物による負傷(8)
 - ・溺死又は窒息。 爆発にさらされた。 電気または放電との接触。 (それぞれ 5,5,4 人の死亡)。

災害の種類別のさらなる詳細なデータは、表 3、www.hse.gov.uk/statistics/tables/ridfatal.xlsxを参照されたい。

Injuries by gender and age

Fatal injuries to workers are predominately to male workers. In 2018/19, 139 (95%) of all worker fatalities were to male workers, a similar proportion to earlier years.

In terms of age, 25% of fatal injuries in 2018/19 were to workers aged 60 and over, even though such workers made up only around 10% of the workforce.

性別及び年齢別の傷害

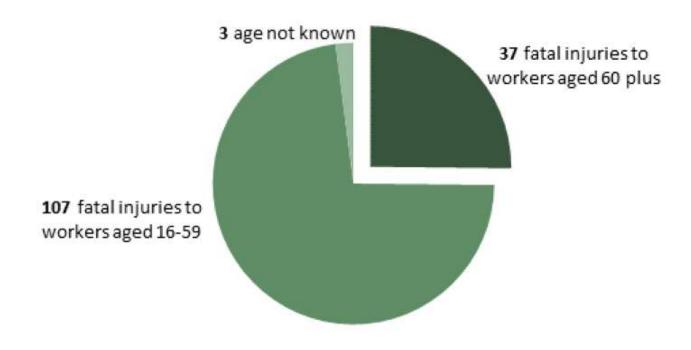
労働者に対する死亡傷害は、圧倒的に男性労働者のものである。2018/19 では、すべての労働者の死亡傷害のうち 139(95%)が男性労働者のものであって、今までの年と同様である。

年齢階層では、60歳以上の年齢階層の労働者は、労働力のおおよそ 10%を占めているに過ぎないにもかかわらず、死亡傷害の 25%が 60歳以上であった。

[Figure 5: Number of fatal injuries by age group, 2018/19p]

[第5図a 年齢階層別の死亡者数、2018/19暫定]

Figure 5: Number of fatal injuries by age group, 2018/19p



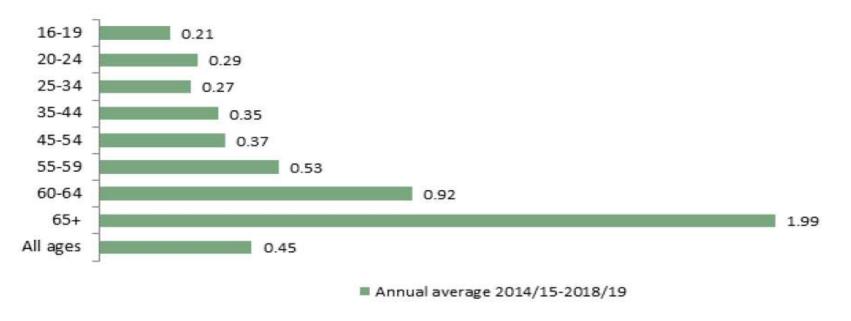
(訳者注:第5図における年齢階層別の内訳)

年齢階層	死亡者数
60 歳以上	37
16—59 歳	107
年齢不詳	3

Figure 6 below shows the fatal injury rate by age group for the period 2014/15-2018/19. This clearly shows how the rate of fatal injury increases with age, with workers aged 60-64 having a rate around twice as high as the all ages rate, and workers aged 65 and over a rate more than four times as high as the all ages rate. Almost all the main industry sectors show an age gradient in fatal injury rate.

下の図 6 は、2014/15-2018/19 の期間における年齢階層別の死亡傷害発生率を示している。 これは、60~64 歳の労働者が全年齢の約 2 倍の発生率で、65 歳以上の労働者が全年齢の 4 倍以上の発生率で、死亡傷害の割合が年齢とともにどのように増加するかを明確に示している。 ほとんどすべての主要産業部門は、死亡傷害発生率が年齢の上昇と一致した勾配を示している。

Figure 6: Rate of fatal injuries by age group (per 100,000 workers), annual average for 2014/15-2018/19p [第6図 年齢階層別死亡傷害発生率(100,000 労働者当たり)、2014/15 から 2018/19 暫定までの平均]



For more details of fatal injuries by age and gender see 年齢別、性別の死亡傷害のより詳細については、www.hse.gov.uk/statistics/tables/ridagegen.xlsx and table 4, www.hse.gov.uk/statistics/tables/ridfatal.xlsx を参照されたい。

Injuries by employment status

Over a quarter of fatal injuries in both 2018/19 and the five year-period 2014/15-2018/19, were to self-employed workers working mostly in Agriculture, forestry and fishing and Construction but also in other sectors including (but not restricted to) Manufacturing, and Administrative and support service activities (such as renting and leasing activities and services to buildings and landscape activities).

By industry, the proportion of fatal injuries to employees and the selfemployed varies considerably, to some extent reflecting the relative make-up of the working population between employees and self-employed.

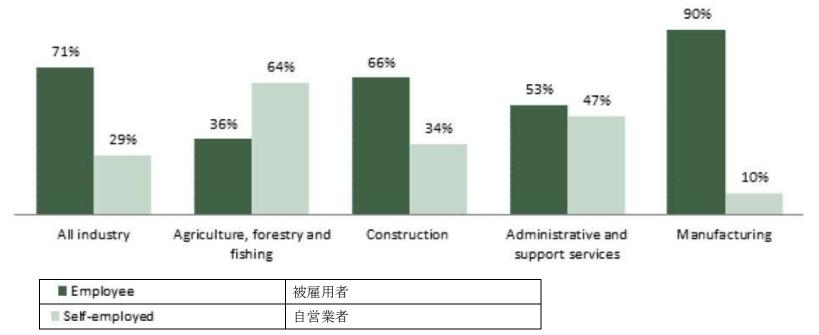
雇用形態別の傷害

2018/19 と 2014/15-2018/19 の 5 年間の両方の死亡傷害の 4 分の 1 以上は、主に 農林水産業及び建設業で働いている自営業者だけでなく、製造業及び(賃貸及び リース活動並びに建築造園活動に対するサービスのような)管理及び支援サービス活動を含む(しかし、これに限定されない)他の業種で働いている自営業者であった。

産業別では、被雇用者と自営業者の死亡傷害の割合は、被雇用者と自営業者との間の労働人口の相対的な構成をある程度反映して、かなり変動している。

Figure 7: Fatal injury by employment status for selected industries, 2014/15-2018/19p

[第7図:選択した業種における雇用形態別の死亡傷害、2014/15-2018/19 暫定]



(以下同じ。)

(訳者注:上記の棒グラフにおける産業部門別の死亡者数の割合(%))

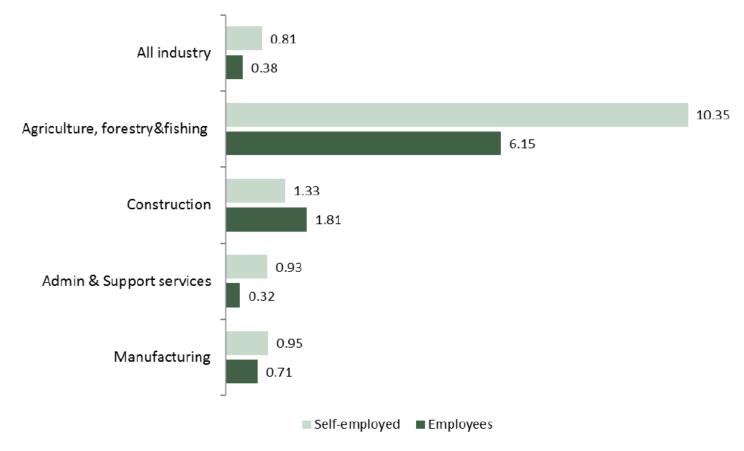
産業部門	左欄の日本語仮訳
All industry	全産業
Agriculture, forestry & fishing	農林水産業
Construction	建設業
Administrative and support services	管理及び支援サービス
Manufacturing	製造業

However, some of the difference in the proportion of fatal injuries to the self-employed by industry is due to variations in the rate of fatal injury to these workers. Overall, the fatal injury rate for the self-employed is more than double that for employees. This increased rate for self-employed workers is seen particularly in the Agriculture, forestry and fishing sector and Administration and Support service activities. However, in construction and manufacturing, there is more parity in the rate of fatal injury between employees and self-employed workers.

しかし、産業別の自営業者における死亡傷害の割合の違いのいくつかは、これらの労働者に対する死亡傷害の割合の変動によるものである。 全体的に見て、自営業者の死亡傷害率は被雇用者の 2 倍以上である。自営業者のこの率の増加分は、特に農林水産業並びに管理及び支援サービス活動において見られる。 しかし、建設業や製造業では、被雇用者と自営業者との間の死亡傷害の発生割合にはより多くの同等性がある。

[Figure 8: Rate of fatal injuries to employees and self-employed workers (per 100,000 workers) for selected industries, 2014/15 - 2018/19p] [第8図 選択された産業における被雇用者及び自営業者の死亡傷害発生率(100,000 人当たり)、2014/15 - 2018/19 暫定]

(訳者注:2014/15-2018/19 暫定の年間平均) (訳者注:業種は、第7図に同じ。)



For more details of fatal injuries by employment status, see www.hse.gov.uk/statistics/tables/ridfatal.xlsx

雇用形態別の死亡傷害のさらなる詳細については、www.hse.gov.uk/statistics/tables/ridfatal.xlsx を参照されたい。

Injuries by country within GB

Figure 9 below shows the country or region where the death occurred for fatalities in 2018/19. The number of fatalities in some regions is relatively small, hence susceptible to considerable variation. Accidents involving multiple fatalities can also affect annual totals. Therefore Figure 9 also shows the annual average number of deaths for the five year period 2014/15-2018/19 as this reduces the effect of year-on-year fluctuations.

It is worth noting that in 2018/19, there was a sharp increase in the number of worker deaths in Scotland. However, this increase can possibly be explained by natural variation in the figures and at this stage does not indicate any statistically significant change.

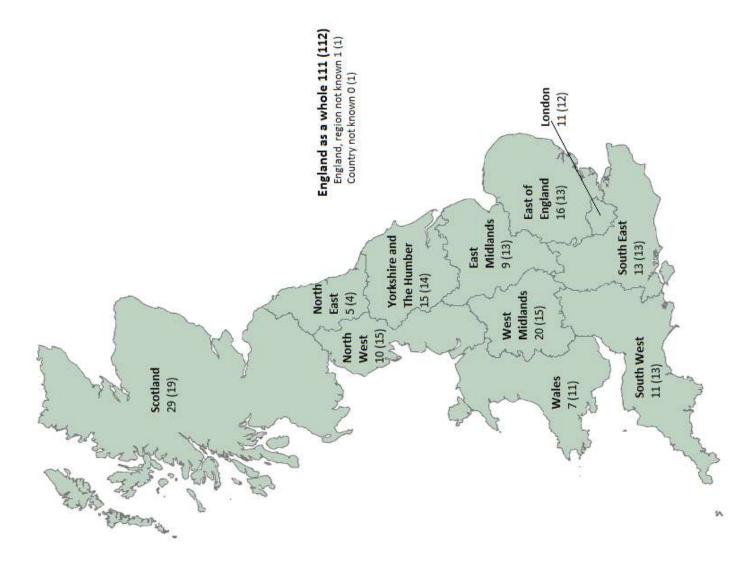
グレートブリテンの国別の傷害者数

次の第9図は、2018/19で死亡傷害が起こった国及び地域を示している。一定の地域の死亡傷害の数は、比較的少なく、それゆえ、かなり変動による影響を受けやすい。多数の死亡傷害を起こした事故も、年間の合計に影響し得る。それゆえ、第9図は、年々の変動を減殺するために、2014/15—2018/19の5年間の年間平均死亡傷害数をも示している。

スコットランドでは、2018/19 に労働者の死亡者数が急増したことは注目に値する。 しかし、この増加はおそらく自然的な変動によって説明することができ、この段階では統計的に有意な変化を示すものではない。

[Figure 9: Number of fatal injuries by country and region within GB, 2018/19p and annual average for 2014/15- 2018/19p (annual average number in brackets)]

[第9図 グレートブリテンにおける国別及び地域別の 2018/19 暫定値及び 2014/15-2018/19 暫定値の年平均(カッコ内の数字)]



In terms of fatal injury rate, England consistently has a lower injury rate than either Scotland or Wales. However, injury rates are strongly influenced by variations in the mix of industries and occupations. The country injury rate does not make allowance for the varying composition of the workforce between the three home nations. A previous analysis of rates adjusted for industry composition by both country and region within England can be found at www.hse.gov.uk/statistics/adhoc-analysis/standardised-fatals.pdf

This analysis shows that after standardising fatal injury rates by industry, Wales and Scotland have a fatal injury rate that is not statistically significantly different from the GB rate.

For more details of fatal injuries by country and region within GB, see Table 5, www.hse.gov.uk/statistics/tables/ridfatal.xlsx

死亡傷害発生率については、イングランドは、一貫して、スコットランド、ウェールズよりも低い発生率である。しかしながら、傷害発生率は、産業と職業の混合における変動による影響を強く受けている。国別の傷害発生率は、これらの3つの母国における労働力構成の違いを考慮していない。

イングランド内の国と地域の業種構成に応じて調整された発生率の以前の分析は、

www.hse.gov.uk/statistics/adhoc-analysis/standardised-fatals.pdf に掲載されている。

この分析は、産業別に死亡傷害率を標準化した後で、ウェールズとスコットランドは、グレートブリテンの発生率とは統計学的に有意に異なるものではないことを示している。

グレートブリテン内の国と地域による死亡傷害の詳細については、表 5、www.hse.gov.uk/statistics/tables/ridfatal.xlsx を参照。

Injury comparison with other countries

(他の国との傷害(死亡傷害発生率)の比較)

Since 1990, the statistical authority for the European Union (Eurostat) has worked with member states on a harmonisation programme to give consistency to workplace injury statistics across the EU. To take account of differing industrial backgrounds across member states, Eurostat publishes industry standardised incidence rates. The standardised rate accounts for variation in industry composition across EU countries. (See the appendix in www.hse.gov.uk/statistics/european/european-comparisons.pdf

for further details on the standardisation process).

The UK consistently has one of the lowest rates of fatal injury across the EU.

- In 2016 the standardised rate, at 0.53 per 100,000 employees, was one of the lowest of all European countries and compares favourably with other large economies such as France, Germany, Italy, Spain and Poland.
- Similarly, the UK three-year average rate for 2013-2015 (0.52 per 100,000 employees) was the lowest of all EU member states.
- Standardised rates published by Eurostat are based on fatalities occurring across all main industry sectors (excluding the transport sector). Whilst road traffic accidents should not be included in these rates, their removal may not always be complete. This should be considered when reviewing rates for individual countries.

1990年以来、欧州連合の統計機関(Eurostat)は、欧州連合全体で職場の傷害統計の整合性を与えるプログラムについて、加盟各国と作業してきた。加盟各国における産業構造の相違を考慮するために、Eurostatは、標準化された災害発生率を公表している。

標準化された発生率は、EU 諸国間の産業構成の変動を説明している。(標準化プロセスの詳細については、:

www.hse.gov.uk / statistics / european / european-comparisons.pdf

:の附属書を参照。

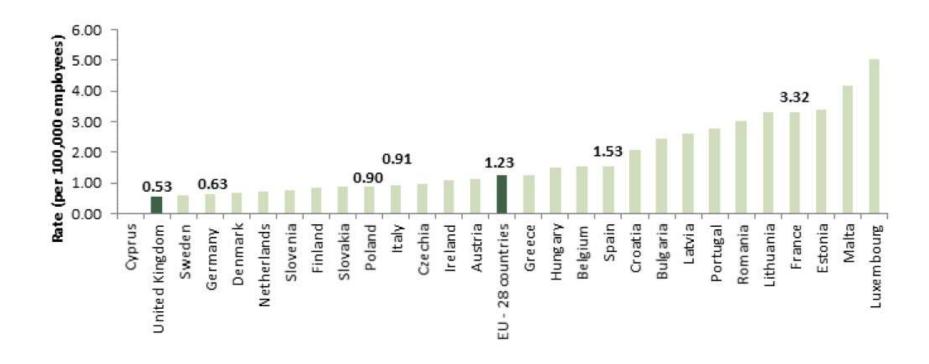
連合王国 *(英国)* は、一貫して欧州連合で最も低い死亡傷害発生率の1つである。

- 2016 年における被雇用者 100,000 人当たり 0.53 という標準化された発生率は、欧州諸国すべてのうちで最も低いものであり、フランス、ドイツ、イタリア、スペイン及びポーランドのような他の大きな経済を有する国との比較でも優位に立っている。
- 同様に、連合王国の 2013—2015 の 3 年間の平均 (被雇用者 100,000 人当たり 0.52) は、すべての欧州連合諸国において最も低いものである。
- Eurostat によって公表された標準化された発生率は、(運輸部門を除いた) すべての主要な産業部門において発生した死亡傷害に基づいている。道路 交通災害は、これらの発生率には含まれるべきではないが、これらの除外 は、通常、完全なものではない可能性がある。このことは、個別の国につい ての発生率を再評価する場合に、考慮されなければならない。

(資料作成者注:上記の記述に照らして、European Union (Eurostat)が、2019 年 7 月 8 日に更新したデータベースを検索してみたが、Standardised incidence rates (per 100,000 employees) of fatal injuries at work for 2016 のデータは見出せなかった。HSE がここで紹介しているデータは、HSE が European Union (Eurostat) から独自に提供されたものであると思われる。)

Figure 10: Standardised incidence rates (per 100,000 employees) of fatal injuries at work for 2016

[第 10 図 EU 加盟 28 カ国における標準化された死亡傷害発生率(被雇用者 10,000 人当たりの数)、2016 年]



Global comparisons, for example, with the USA, Asia etc, are not available due to differences in definitions of workplace accidents and reporting systems.

全世界的な比較(例えば、アメリカ合衆国、アジア等)は、職場での災害の定義 及び報告システムの相違から利用できない。

For more details see www.hse.gov.uk/statistics/european/table1.xlsx

より詳細なデータは、<u>www.hse.gov.uk/statistics/european/table1.xlsx</u> を見られたい。

Longer term trends

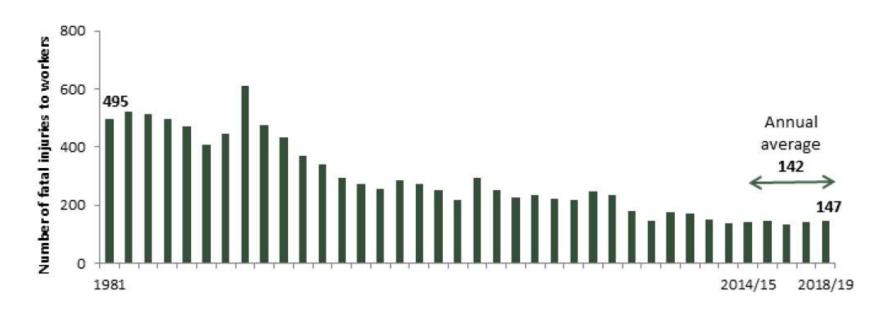
Despite long term reductions in the number of workers killed by work activities, each year such cases continue, with 147 such deaths in 2018/19. This number compares with 253 twenty years ago (1998/99) and 495 in 1981 (prior to 1981 only fatal injury numbers to employees were reported to enforcing authorities).

長期的な傾向

労働活動によって死亡傷害した労働者数の長期的な減少にもかかわらず、毎年そのような事象が続いており、2018/19年には147人 (訳者注:被雇用者及び自営業者の合計)が死亡している。 この数字は、20年前(1998/99)の253人及び1981年の495人(1998年/99年)と比較される(1981年以前は、被雇用者の死亡傷害のみが法執行機関に報告されていた。)。

Figure 11: Number of fatal injuries to workers in Great Britain, 1981-2018/19p

「第11図:グレートブリテンにおける労働者の死亡傷害の数]



As described in the earlier section 'Headline figures', the 147 fatal injuries in 2018/19 represents an increase of 6 fatalities from 2017/18. However, it is possible that this change can be explained by natural variation in the figures. In statistical terms the number of fatalities has remained broadly level in recent years – the average annual number of workers killed at work over the five years 2014/15-2018/19 is 142.

By natural variation we mean that if we had identical conditions between two years; identical people doing identical jobs in identical industries

前のセクション「主要な数字」で説明したように、2018/19 年の 147 人の死亡者数は 2017/18 年から 6 人の死亡者の増加を示している。しかしながら、この変化は数字上の自然の変化によって説明されることが可能である。 統計的には、近年の死亡者数は概ね横ばいであり、2014/15-2018/19 の 5 年間に職場で死亡した年間平均労働者数は 142 人である。

自然変動とは、2年の間に同じ条件、すなわち、同一の人々が同一の業界で同一の仕事をし、同一の条件で作業したとしても、死亡者数は必ずしも同じでは

working in identical conditions, the number of fatalities would not necessarily be the same. This is because the final total is at least partly related to chance and randomness. Examining the causal factors behind individual fatal accidents, it is often found that an unfortunate set of chance events have occurred together with shortcomings in safety precautions. Annual counts of fatalities can also be influenced by multiple fatalities; that is one incident resulting in more than one death.

Taking employment levels into account, the 147 fatalities in 2018/19 gives rise to a fatal injury rate of 0.45 deaths per 100,000 workers. When considering trends over time it is preferable to consider the rate of injury rather than just the number of injuries as the rate accounts for changes in the numbers in employment between years. The long-term picture for the fatal injury rate is similar to that for fatal injury numbers: a long-term downward trend to around 2013/14. Since then the rate has been broadly flat.

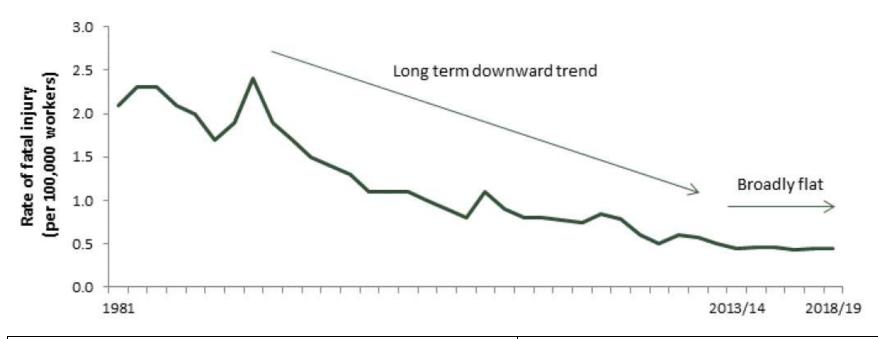
ない、という意味である。これは、最終的な合計が少なくとも部分的には偶然性とランダム性に関連しているためである。 個々の死亡傷害の背後にある原因となる要因を調べると、安全上の注意の欠点とともに、不幸な一連の偶発事象が発生していることがよくある。 死亡者数の年間数も一度で複数の死亡者を結果として生じた事象の影響を受ける可能性がある。

雇用レベルを考慮すると、2018/19年の147人の死亡者数は、10万人の労働者当たり0.45人の死亡率をもたらしている。経時的な傾向を考慮するときは、年数による雇用の数の変化を考慮に入れるので、単なる死亡傷害の数よりも死亡傷害の発生率を考慮することが好ましい。

死亡傷害発生率の長期的な見方は、死亡傷害の数の傾向と似ている:つまり 2013/14 年頃までの長期的な減少傾向である。 それ以来、死亡傷害発生率は ほぼ横ばいであった。

Figure 12: Rate of fatal injuries to workers in Great Britain, 1981-2018/19p

[第12図 1981-2018年暫定までの死亡傷害発生率]



For more details see www.hse.gov.uk/statistics/tables/ridhist.xlsx and www.hse.gov.uk/statistics/tables/ridhist.xlsx

より詳細については、<u>www.hse.gov.uk/statistics/tables/ridhist.xlsx</u> 及び <u>www.hse.gov.uk/statistics/tables/ridfatal.xlsx</u> を参照されたい。

一般公衆の死亡傷害

A total of 92 members of the public were killed in 2018/19 as a result of a work-connected accident. Of these deaths, about a third (32) occurred on railways and a further 23 occurred in the Health and social work sector.

Comparison of numbers between years is complicated by recent changes in reporting requirements. Since October 2013, the requirement to report suicides to members of the public on railways (which accounted for a high proportion of railway deaths) was removed. Further, since 2015/16, the fatality figure no longer includes 'patient and service users' deaths in England for premises registered with the Care Quality Commission. Previously these statistics were recorded as member of the public deaths in Health and social care.

To get an indication of changes in work-related deaths to members of the public, the chart below considers work-related deaths to members of the public excluding those that occurred on railways and in health and social care. This shows that over the last decade the number of such deaths has fluctuated each year, with no clear trend.

労働関連の事故の結果、2018年/19年に合計92人の一般公衆が死亡した。これらの死亡のうち、約3分の1(32)が鉄道で発生し、さらに23人が医療及び社会福祉の分野で発生していた。

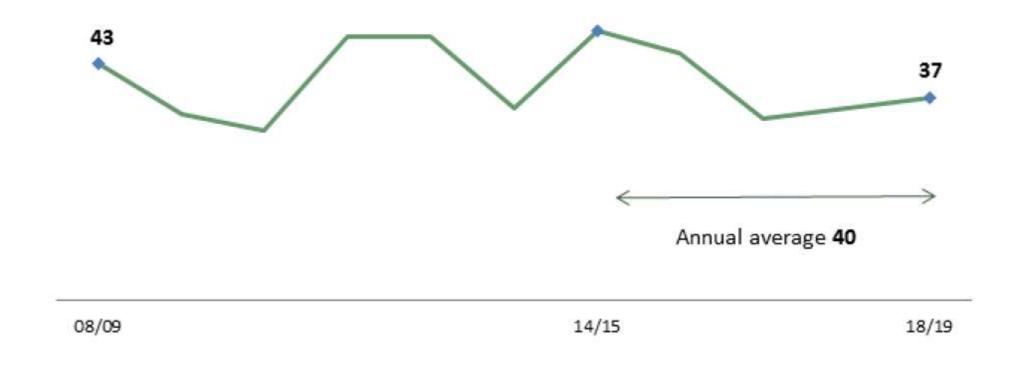
年間の数値の比較は、報告要件の最近の変更により複雑になっている。 2013 年 10 月以来、一般公衆の鉄道での自殺を報告するという要求(鉄道による死亡の大部分を占める。)は削除された。さらに、2015/16 年以降、イングランドの「患者及びサービス利用者」の死亡は、ケア品質管理委員会に登録され、死亡傷害の数字には含まれなくなった。以前は、これらの統計は保健医療及び社会福祉における一般公衆死亡の一員として記録されていた。

一般公衆の労働関連の死亡の変化の指標を得るために、以下の図表は、鉄道上及 び医療保健、社会福祉で生じたものを除く、一般公衆の労働関連の死亡を考慮し たものである。

これは、過去10年間でそのような死亡者数が毎年変動していることを示しており、明確な傾向はない。

Figure 13: Number of work-related deaths to member of the public, excluding deaths on railways and in health and social care: GB 2008/09 - 2018/19p

[第 13 図:、鉄道上及び医療保健、社会福祉で生じたものを除く、一般公衆への労働関連の死亡傷害数:グレートブリテン 2008/09-2018/19 暫定]



For more details see Table 2, $\underline{www.hse.gov.uk/statistics/tables/ridfatal.xlsx}$

より詳細については、<u>www.hse.gov.uk/statistics/tables/ridfatal.xlsx の表 2</u>を参照されたい。

ANNEX 1: Sources and definitions

附属書1:資料出所及び定義

Coverage of fatal injury numbers

Fatal injuries included in this report are those that the relevant enforcing authority (namely HSE, Local authorities or the Office of Rail and Road) have judged as reportable under the Reporting of Injuries, Diseases and Dangerous Occurrences Regulations (RIDDOR).

Certain types of work-related injury are not reportable under RIDDOR, hence excluded from these figures. Particular exclusions include:

- Fatal accidents involving workers travelling on a public highway (a 'road traffic accident'). Such incidents are enforced by the police and reported to the Department for Transport. Those killed whilst commuting (travelling from home to work, and vice versa) are also excluded. For road accident statistics, see https://www.gov.uk/government/organisations/department-for-transport/series/road-accidents-and-safety-statistics
- Fatal accidents involving workers travelling by air or sea. These
 incidents are the responsibility of the Air Accident Investigation Branch
 and Marine Accident Investigation Branch of the Department for
 Transport and reported accordingly;
- Fatalities to members of the armed forces on duty at the time of incident;
- Fatal injuries at work due to 'natural causes', often heart attacks or strokes, unless brought on by trauma due to the accident.

死亡傷害数のカバーしている範囲

この報告書に含まれる死亡傷害は、関連する法執行機関(すなわち HSE、地方自治体又は鉄道・道路局)が傷害、疾病及び危険事象報告規則(RIDDOR)に基づいて報告する必要があると判断されたものである。

特定の種類の労働関連の死亡傷害は RIDDOR のもとでは報告されないため、これらの数字から除外されている。 特に除外されるものは、次のものである。

公共の高速道路を移動する労働者を含む死亡事故(「道路交通事故」)。 このような事件は警察によって執行され、運輸省に報告される。 通勤中に死亡したもの(自宅から職場への移動及びその逆)も除外される。 交通事故の統計については、www.gov.uk/government/organisations/department-fortransport/series/road-accidents-and-safety-statistics

を参照されたい。

- 空路又は海路で移動する労働者を含む死亡事故。これらの事件は運輸省の航空事故調査部門と海洋事故調査部門の管轄であり、それぞれに報告されている。
- 事件発生時に従事していた軍隊の構成員の死亡者数
- 事故による外傷によるものでない限り、「自然の原因」多くは心臓発作又は 脳卒中による職場での死亡傷害

Fatal injury statistics presented in this report also exclude deaths from occupational diseases, which typically occur many years after first exposure to the causative agent. The asbestos-related cancer mesothelioma is one of the few examples where deaths due to an occupational disease can be counted directly. There were 2,523 such deaths in GB in 2017- see www.hse.gov.uk/statistics/causdis/asbestos.htm. Other occupational deaths usually have to be estimated rather than counted. Each year around 13,000 deaths from occupational lung disease and cancer are estimated to have been caused by past exposure, primarily to chemicals and dust, at work. (this estimate includes the count of mesothelioma deaths).

この報告書に示されている死亡傷害の統計は、職業病による死亡、典型的には最初に原因物質にばく露してから長年経過してから発症するものも除外している。石綿関連のがんである中皮腫は、職業病による死亡が直接数えられる数少ない例の 1 つである。 2017 年にはグレートブリテンで 2,523 人が死亡している。www.hse.gov.uk/statistics/causdis/asbestos.htm を参照されたい。

他の職業上の死亡は通常、数えるのではなく見積られる必要がある。職業性肺疾 患及びがんによる毎年約13,000人の死亡が、職場での主に化学物質及び粉じん への過去のばく露によって引き起こされたと推定されている。(この推定値には 中皮腫の死亡数が含まれている。)。

Provisional nature of the latest statistics

On first publication, RIDDOR data is classified as provisional and marked with a 'p' suffix.

The following year data are finalised and marked as 'r' (revised). The revised (finalised) figures for fatal injuries can go down as well as up, by up to +/-3% on finalisation for fatal injuries to workers. The change from provisional to final usually reflects more up-to-date information following the detailed investigations of these incidents, but also Regulation 6 of RIDDOR covers situations where someone dies of their injuries within a year of their accident. The finalised figure for 2017/18 is 141 revised from 144.

最新の統計の暫定的な性格

最初の公表において、傷害、疾病及び危険事象報告規則 (RIDDOR) のデータは、暫定的なものとして、接尾辞 p が付されている。

翌年のデータは確定され、'r'(改訂)としてマークされる。

死亡傷害のための修正された(最終的な)数値は、労働者への死亡傷害のための 最終決定時に最大+/-3%まで上下することがある。

暫定的なものから最終的なものへの変更は通常これらの事件の詳細な調査の後のより最新の情報を反映するが、RIDDOR 規則第6条も、事故発生後1年以内に死亡した場合は、そのような状況をカバーしている。2017/18の確定値は144から141に変更されている。

Table 1: Differences in provisional and finalised counts of fatal injuries to workers, 2014/15-2018/19p

[表1:労働者への死亡傷害の暫定及び確定のカウント数]

Year	Provisional figure	Revised finalised figure	Difference
2018/19p	147	-	-
2017/18r	144	141	-3
2016/17	137	135	-2
2015/16	144	147	+3
2014/15	142	142	0

(訳者注:この表1中の「英語原文―日本語仮訳」は、次のとおりである。)

英語原文	日本語仮訳
Provisional figure	暫定的な数字
Revised finalized figure	改訂・確定値
Difference	相違

Fatal injury rates

Differences in the size of the workforce will impact on comparisons of the number of fatalities, both over time and between one group and another within a year (e.g. between different industry groups). In order to make robust comparisons it is important to consider the rate of fatal injury. The rate is constructed by dividing the count of fatal injuries by the employment estimate. This is then multiplied by a factor of 100,000 to give a rate per 100,000 workers, in line with international standards. The source of employment data used to construct the injury rates from 2004/05 onwards is the Annual Population Survey (APS).

死亡傷害発生率

労働力の規模の相違が、死亡傷害の数に関する時間的及び 1 年以内のあるグループと他のグループ (例えば、異なる産業グループ間の) との両方の比較に影響している。

強固な比較をするためには、死亡率を検討することが重要である。死亡率は、見積もられた雇用者数で、死亡傷害の数を割ることで策定される。これは、それから国際的な標準に沿って、労働者 100,000 人当たりの発生率にするために100,000 の因子を乗ぜられる。死亡傷害発生率を策定するための雇用者数のデータは、2004/2005 年度以来現在まで、年間人口調査 (APS) である。

Statistical significance

The total fatal injury count is subject to a degree of chance and randomness; if exactly the same conditions prevail in two different years then it is likely that the annual count will differ due to natural variation. We use tests of statistical significance at the 95% confidence level to judge whether a difference between years is likely to be explained by natural variation alone or whether it represents a statistically significant difference.

(Note statistical significance should not be confused with the significance of each injury. Every casualty is a tragedy and has both a social cost and a personal cost to those directly affected).

For more information see www.hse.gov.uk/statistics/sources.pdf

統計的有意性

死亡傷害の合計は、偶然及び無作為性の程度に従う、もしも、異なる2年間にまさに同じ条件が支配的であれば、年間の数の相違は自然的な変動によるものであろう。我々は、年々の相違が自然的な変動のみで説明できそうか、又はそれが統計的に有意な相違を表しているかを判断するために、95%の信頼性の水準で、統計的有意性の試験を使用している。

(注;統計的有意性は、個々の傷害の有意性と混同されてはならない。全ての 犠牲は、悲劇であって、直接害を被ったにとって社会的コスト及び個人的コス トの両方をもたらす。)

さらなる情報については、<u>www.hse.gov.uk/statistics/sources.pdf</u>を参照されたい。

Industry definitions

The table below presents the 2007 Standard Industrial Classification (SIC) codes used to define the top level industry groupings presented in this report.

産業 (分類) の定義

次の表は、この報告で示されている産業別のグループの大分類を定義するために使用された 2007 年の標準産業分類 (SIC) 規則を示している。

SIC Code	Industry Description	標準産業分類(SIC)規則の記述
Section A	Agriculture	A:農業
Section B	Mining and quarrying	B:鉱業及び採石業
Section C	Manufacture	C:製造業
Section D	Electricity, Gas, Steam and Air Conditioning	D: 電気、ガス、蒸気及び空調
Section E	Water Supply, Sewerage, Waste Management and Remediation	E: 水道、下水道、廃棄物管理及び改善
Division 38	of which waste and recycling	第 38 部廃棄物及びリサイクル業
Section F	Construction	F:建設業
Section G,I	Wholesale and retail trade; repair of motor vehicles and	G,I: 卸売小売業、自動車及びオートバイ修理業、宿泊及び食品サービス業
	motorcycles; accommodation and food service activities	
Section H	Transport and storage	H:運輸及び倉庫業
Section J-N	Communication, business services and finance	J—N:通信、事業サービス及び金融業
Section N	Of which Administrative and support services	Section N:管理及び支援サービス
Section O-Q	Public administration; education; human health and	O-Q: 公務、教育、医療及び社会保障活動
	social work activities	
Section R-U	Arts, entertainment and recreation; all other service	R-U:芸術、娯楽及びレクリエーション、他のすべてのサービス活動
;	activities	

National Statistics

National Statistics status means that official statistics meet the highest standards of trustworthiness, quality and public value.

They are produced in compliance with the Code of Practice for Statistics, and awarded National Statistics status following an assessment by the Office for Statistics Regulation (OSR). The OSR considers whether the statistics meet the highest standards of Code compliance, including the value they add to public decisions and debate.

It is Health and Safety Executive's responsibility to maintain compliance with the standards expected by National Statistics. If we become concerned about whether these statistics are still meeting the appropriate standards, we will discuss any concerns with the OSR promptly. National Statistics status can be removed at any point when the highest standards are not maintained, and reinstated when standards are restored.

An account of how the figures are used for statistical purposes can be found at www.hse.gov.uk/statistics/sources.htm .

For information regarding the quality guidelines used for statistics within HSE see

www.hse.gov.uk/statistics/about/quality-guidelines.htm

A revisions policy and log can be seen at www.hse.gov.uk/statistics/about/revisions/

Additional data tables can be found at www.hse.gov.uk/statistics/tables/.

国家統計

国家統計の重要性は、統計が信用性、質、公共的な価値について最高の標準に適合していることを意味する。それらは統計実務規範に従って作成され、統計規制局(OSR)の評価に従って国家統計としての位置付けを付与される。統計規制局(OSR)は、公的な意思決定と討論に加える価値を含め、統計が最高の規範順守基準を満たしているかどうかを検討する。

国家統計によって予想される基準との適合性を保持することは、HSEの責任である。もしも、これらの統計が依然適切な基準に適合しているかどうか懸念があるならば、我々は、速やかにいかなる懸念も統計規制局 (OSR) と協議するであろう。国家統計の重要性は、最高の基準が保持されないときにはいかなる瞬間でも取り除かれ、そして基準が回復されたときには復帰される。

統計目的のためにこれらの数字が如何に用いられるかの説明は、www.hse.gov.uk/statistics/sources.htm.

HSE で統計に使用されている品質のガイドラインに関する情報については、www.hse.gov.uk/statistics/about/quality-guidelines.htm を参照されたい。 改訂の方針及び記録は、www.hse.gov.uk/statistics/about/revisions/で見ることができる。

追加的なデータ表は、<u>www.hse.gov.uk/statistics/tables/</u> . で見出すことができる。

General enquiries: Statistician <u>heidi.edwards@hse.gov.uk</u>	一般的な質問:統計官 <u>heidi.edwards@hse.gov.uk</u>
Journalists/media enquiries only: www.hse.gov.uk/contact/contact.htm	報道機関の質問のみ: <u>www.hse.gov.uk/contact/contact.htm</u>

(参考資料)

◎ 労働災害の発生率に関する日本及びアメリカ合衆国並びに EU 加盟国全体、EU 加盟諸国のうち英国、フランス及びドイツとの比較について

このような比較を行うのは、英国、フランス及びドイツと日本及びアメリカ合衆国との労働災害統計の基本となるデータの特質、統計の対象となる被雇用者の 範囲、公務及び国防・義務的社会保障事業従事者の取扱い等が必ずしも同一のものではないことから、一定の困難を伴う。しかしながら、このような条件の下で も英国、フランス及びドイツと日本及びアメリカ合衆国との労働災害発生率等を比較することには、一定の意味があると考えられる。

そこで、当国際センターが従来作成してきた関係資料、今回作成した資料等から抜粋して、次の資料を作成した。

1 非致死的な労働災害の発生率の日本、アメリカ合衆国並びに EU 諸国のうち英国、フランス及びドイツとの比較

国別	統計の対象年	労働災害統計の指標の種類及び関係するデータ		左	:欄の指標に関する留意事	資料出所
	(年度)			項	į	
日本	2013-2018年	日本における全産業死傷年千	人率の推移	•	労働安全衛生法に基づく報	労働者死傷病報告、総務省労働
		(休業4日以上及び死亡	傷害が対象)		告義務のない公務従事者	力調査に基づく厚生労働省公表
		暦年	死傷年千人率		は、除外されている。	資料
		2013年	2.3	•	道路交通災害を含む。	
		2014年	2.3			
		2015年	2.2			
		2016年	2.2			
		2017年	2.2			
		2018年	2.3			
アメリカ合衆	2015年	「民間産業では、2015 年の	10,000 人のフルタイム労(動 •	左欄の①では公務従事者	アメリカ合衆国労働統計局
国		者当たりの発生件数は、93.9	件(年千人率に換算する	<u> </u>	(アメリカ合衆国内の軍関係者	(Bureau of labor Statistics)
		9.39) で、2014 年の 97.8 件 (年千人率に換算すると 9.78)		() を	:含む。) が含まれている。	
		よりは減少した。」		•	いずれも道路交通災害を含	
					む。	

2016年	「2016年には、民間産業の使用者によって報告されたお	
	およそ 290 万件の非致死の傷害及び(職業性)疾病があ	
	った。これらの発生率は、100人のフルタイム換算労働者	
	当たり 2.9 件(1000 人のフルタイム換算労働者に換算す	
	 ると 29) の発生率であった。」とされている。このことと	
	日本の相当するデータを比較すると、2016年における日	
	 本の労働者死傷病報告を基礎とする年千人率(日本の場	
	合は休業4日以上の災害で死亡災害を含んでいる。) は、	
	2014 年、2015 年とも 2.3、2016 年にあっては 2.2 であ	
	 る。したがって、アメリカ合衆国における労働災害発生率	
	は休業 1 日以上のものを対象にしていること、危険性の	
	低い業種を除外していること等を考慮に入れても、日本	
	の休業 4 日以上及び死亡災害を対象としている発生率よ	
	りは高いと考えられる。	
2017年	「民間の使用者によって 2017 年に報告された非致死的な	
	職場における負傷及び疾病は、おおよそ 280 万の負傷及	
	び疾病があって、その発生率は、フルタイム換算(FTE)	
	労働者 100 人当たり 2.8 件 (1000 人のフルタイム換算労	
	働者に換算すると 28) の発生率であった。」とされてい	
	る。	
	このことと日本の相当するデータを比較すると、2016年	
	における日本の労働者死傷病報告を基礎とする年千人率	
	(日本の場合は休業 4 日以上の災害で死亡災害を含んで	
	いる。)は、2014年は2.3、2015年、2016年及び2017	
	年にあっては 2.2、2018 年では 2.3 である。したがって、	
	アメリカ合衆国における労働災害発生率は休業 1 日以上	

		のものを対象にしていること、危险	倹性の低い業種を除外				
		していること等を考慮に入れても、	日本の休業 4 日以上				
		及び死亡災害を対象としている発生	上率よりは高いと考え				
		られる。					
EU 加盟 28 カ		非致死的な災害についての雇用者1	0万人当たりの発生数	•	休業 4 日以上のものが対象	•	European Statistics on
国全体		(つまり発生率)			である。		Accidents at Work (略称:
	2013年	1533.39(暫定値)		•	通勤災害は、除外されてい		ESAW), Eurostat
	2014年	1554. 08			る。		(hsw_n2_01) (2019年7月
	2015年	1513. 02					8日更新版)
	2016年	1585. 66				•	European Statistics on
英国	2013年	非致死的な災害についての雇用者	10 万人当たりの発生	•	英国のHSEが公表する統計		Accidents at Work,
		数(つまり発生率) 831.68(年	千人率に換算すると		では、道路交通災害は除外		(ESAW), Summary
		8.3168)			されているが、European		methodology, 2013 edition
	2014年	827. 27 (年千人率に換算すると約	J 8.27)		Statistics on Accidents at		
	2015年	760.37 (年千人率に換算すると約7	7.60)		Work (略称: ESAW)では対		
	2016年	721.87(年千人率に換算すると約7	7.20)		象に含まれている。		
ドイツ	2013 年	1900.01(同上。年千人率に換算す	ると約 19.0)				
	2014年	1855.71(同上。	約 18.6)				
	2015年	1812.27(同上。	約 18.2)				
	2016年	1834.29(同上。	約 18.3)				
フランス	2013年	3,041.67 (同上。年千人率に換算す	つると約 30.4)				
	2014年	3,326.98(時系列的な断絶がある。)					
		(同上。	約 33.3)				
	2015 年	3,160.29(同上。	約 31.6)				
	2016年	3,458.28(同上。	約 34.6)				

2 致死的な労働災害(つまり死亡傷害)の発生率についての日本及びアメリカ合衆国並びに EU 諸国のうち、標準化されていない *(実際の)*発生率についての英国、フランス及びドイツとの国別比較

国別	統計の 対象年 (年度)	労働災害統	だ計の指標の種類及び関係するデータ 	左欄の指標に関する留意事 項	資料出所
日本	2013 年~ 2018 年	年 2013 2014 2015 2016 2017 2018	労働者 10 万人当たりの死亡傷害発生数 (試算の方法は、別記を参照されたい。) 2.09 2.12 1.94 1.81 1.89	労働安全衛生法に基づく 報告義務のない公務従事 者は、除外されている。道路交通災害を含む。	労働者死傷病報告、総務省労働力調査に基づく厚生労働省公表資料
アメリカ合衆国			● いずれも道路交通災害を 含む。	News release, Bureau of labor Statistics, U.S. DEPARTMENT OF LABOR NATIONAL CENSUS OF FATAL OCCUPATIONAL INJURIES IN 2017	

	1		T			
			そのうち、民間産業については、3.7			
		2015	3.4			
			そのうち、民間産業については、3.6			
		2016	3.6			
			そのうち、民間産業については、3.8			
		2017	3.5			
			そのうち、民間産業については、3.7			
EU 加盟	2013年	1.8(暫定	₹)	•	通勤災害は、除外されてい	Fatal Accidents at work by
28 カ国全	2014年	1.82			る。	NACE Rev. 2 activity
体	2015年	1.83				Lastupdate: 08.07.19
	2016年	1.71				Source of data: Eurostat
英国	2013年	0.92				
	2014年	0.81				
	2015年	0.83				
	2016年	0.8				
ドイツ	2013年	0.99				
	2014年	1.09				
	2015年	0.97				
	2016年	0.88				
フランス	2013年	2.96				
	2014年	2.7(時系	系列上の不連続がある。)			
	2015年	257				
	2016年	2.74				

(別記-資料作成者注:日本の労働者 10 万人当たりの労働災害死亡率(2013~2018)の試算結果(2019年7月10日)

日本の労働者 10 万人当たりの労働災害死亡率 (2013~2018) の試算 (2019年7月)

年	死亡者数	該当する年の雇用者	左欄のうち、役員	B のうち、公務及び国	D= b - C (単位万人)	労働者 10 万人当たりの死亡傷害
	(A) (厚生	数合計(万人。資料出	を除く雇用者数	防·義務的社会保障事業	(公務及び国防・義務的社会保	発生数(E)=((A)÷ (D) ×10)
	労働省労働	所:総務省統計局)(B)	(b)	(国際分類の 0 に該当	障事業従事者 (C) については、	
	基準局)	毎年4月のデータ		する) 従事者数 (単位万	役員はいないものと想定し	
				人) (C) (各年の平均)	た。)	
2015	972	5,653	5,303	231	5,072	1.92
2016	928	5,741	5,391	231	5,160	1.80
2017	978	5,810	5,460	229	5,231	1.87
2018	909	5,927	5,596	232	5,364	1.69

資料出所

- 「死亡者数 (A) (厚生労働省労働基準局)」: 職場のあんぜんサイト http://anzeninfo.mhlw.go.jp/user/anzen/tok/anst00.htm から抜粋した。
- 「該当する年の雇用者数合計(万人。資料出所:総務省統計局)(B)」及び「左欄のうち、役員を除く雇用者数 (b)」: http://www.stat.go.jp/data/roudou/longtime/03roudou.html における「長期時系列表 10 (1) 年齢階級(10 歳階級)別就業者数及び年齢階級(10 歳階級),雇用形態別雇用者数 全国」http://www.stat.go.jp/data/roudou/longtime/zuhyou/lt52.xls から抜粋した。
- 「雇用者のうち、公務及び国防・義務的社会保障事業(国際分類の O に相当する。)従事者数(単位万人)(C)(各年の平均)」: http://www.stat.go.jp/data/roudou/longtime/03roudou.html」 における「長期時系列表 5 (4)産業(第 12・13 回改定分類)別雇用者数 全国」 http://www.stat.go.jp/data/roudou/longtime/zuhyou/lt05-06.xls から抜粋した。